ICメルマガ（国際委員会メールマガジン）

第74回 AIEST カンファレンス 2025 パリの参加報告

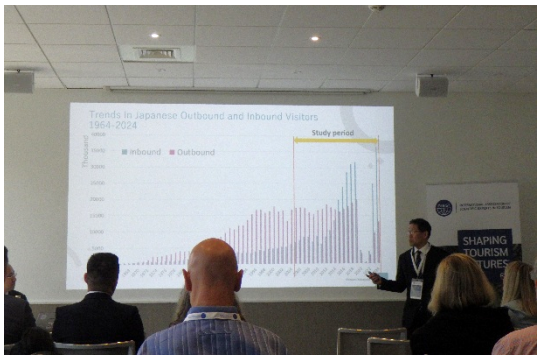
國學院大學　観光まちづくり学部
小林　裕和

今年で74回目を迎えるThe International Association of Scientific Experts in Tourism (AIEST) 2025年次大会は、2025年8月24～27日にフランス・パリで開催されました。AIESTは1951年に設立された、観光分野において最も長い歴史を持つ国際学術協会です。学者と実務家の双方に観光への好奇心と情熱を喚起することをビジョンとして掲げており、論文募集も学術分野と実務家向けと2種類あり、科学的・実践的交流を可能にしています。論文募集のテーマは、(1) 中心的な議論：持続可能な未来に向けた観光システムの設計、(2) カンファレンステーマ：観光における人間と機械の関係、(3) その他の貢献：AIESTの観光研究における進展 - 主体、制度、システムの視点、の3つが設定されました。

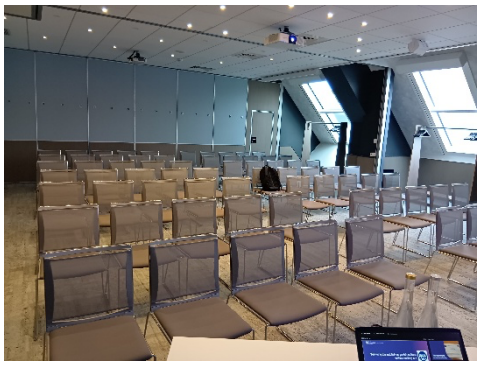
初日は研究デザインについてのワークショップ、2日目は、パリ五輪に関する基調講演のあと研究発表が続きました。発表には、事前に extended abstract を投稿し受理されることが必要ですが、研究の初期段階（計画に関するフィードバックを求める）から後期段階（結果などに関するフィードバックを求める）まで、さまざまな段階の研究論文を提出できます。そして発表、質疑応答、それぞれ10分～15分と議論の時間が長くとられています。CFPには、〈本会議の主たる目的は「フィードバック」であり、自身の研究に対して有益な意見を得ることに重点が置かれている〉と明記され、議論の機会を重視していることが特徴的です。実際、発表者と参加者の議論にとどまらず、参加者同士が意見を交換することも多くみられ、私自身の発表でも欧州各国の研究者から非常に多くの示唆をいただきました。

本大会の参加者は60名、発表は44件、参加者は欧州を中心としてそのほかの地域からの参加もありました。日本からの発表者は私だけでしたが、過去にも日本人の参加はあったとのことです。大会中は、休憩時間、ランチ、オフィシャルディナーなど、研究者同士のネットワーキングの時間が十分にとられ、参加人数が比較的小規模な分、家族的な雰囲気の中で活発にコミュニケーションが行われていたことが印象的でした。次回大会は2026年8月、スイスのサンクト・ガレンにて開催される予定です。

発表の様子



会場は2部屋。40名～70名と比較的小規模な設定



会場のあるBercyはかつて欧州一のワイン市場を再開発

8/27 エクスカーションで訪問した国際大学都市（学生寮）